



2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて厚生労働省が検討している、飲食店を原則建物内禁煙（喫煙室の設置は可）とする罰則付きの受動喫煙対策案には、反対意見も多いようです。喫煙が健康に良くないと分かっているにもかかわらず、愛煙家にとって禁煙のハードルは高いのでしょうか。

厚生労働省の「平成27年 国民健康・栄養調査結果の概要」によると、現在習慣的に喫煙している人の割合は18.2%でした。性別にみると、男性30.1%、女性7.9%であり、男女ともに10年間で減少傾向にあります。年代別では、男性は30歳代、女性は40歳代でもっとも高くなっています。

現在習慣的に喫煙している人のうち、1日に21本以上吸う人の割合は10.0%で、男女別では男性12.4%、女性2.0%です。やめたいと思う人の割合は男性26.1%、女性33.6%となっています。

たばこの煙には、ニコチンや一酸化炭素、タールなど200種類以上の有害物質、64種類の発がん物質が含まれており、健康に害を及ぼすことがわかっています。

たばこを長期間吸い続けると、肺がんやCOPD（慢性閉

喫煙率

減少傾向といっても 男性30.1%、女性7.9%

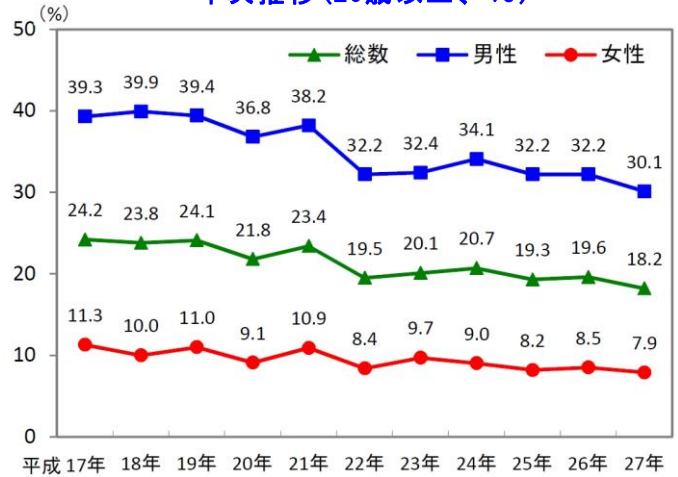
塞性肺疾患）、心疾患をはじめ、様々な病気のリスクを高めます。非喫煙者の死亡の危険度を1とした場合、肺がんは男性が4.45倍、女性が2.34倍という厚生労働省の調査報告もあります。

禁煙しようとするときイライラしたり、怒りっぽくなるなど、禁断症状が現れます。

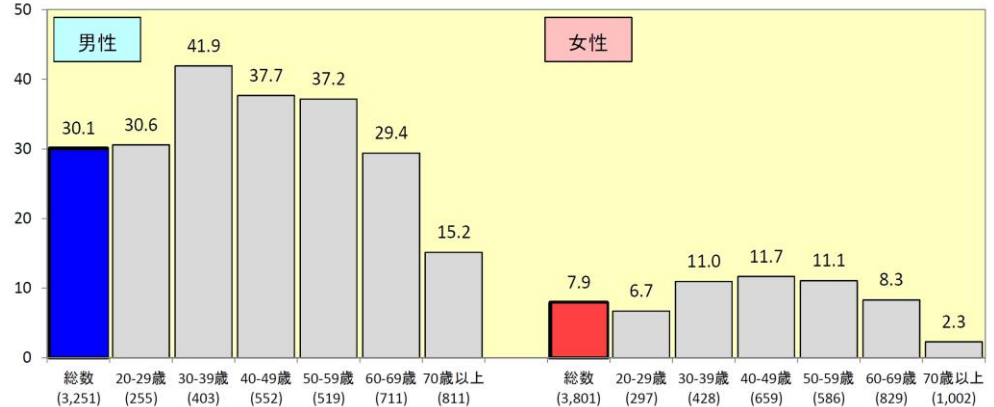
受動喫煙の害も深刻です。喫煙者が直接吸い込む主流煙よりも、た

ばこの先端から立ちのぼる副流煙の方が、有害物質が多く含まれており、たばこを吸わない人の健康にも影響を与えます。

現在習慣的に喫煙している者の割合の年次推移(20歳以上、%)



性別・年代別の現在習慣的に喫煙している者の割合



※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。

なお、平成24年までは、これまでたばこを習慣的に吸っていたことがある者*のうち、「この1か月間に毎日又はときどきたばこを吸っている」と回答した者。

*平成16～22年は、合計100本以上又は6か月以上たばこを吸っている（吸っていた）者。

厚生労働省「平成27年 国民健康・栄養調査結果の概要」より

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル